

(1) 地域の現状

- ・猿払村は南北に長い地域で、漁業・農業が盛んな地域。鬼志別地区は村の中心市街地で、鬼志別バスターミナルあるほか、病院・商店も集まっている。バス交通としては、天北線の運行の他、村営バス(稚内市東浦地区から鬼志別地区)が運行されている。
- ・猿払村の人口は僅かながらも減少、平成20年現在、人口2,873人。
- ・全道と異なり高齢者の割合は微増から横ばい傾向、約5人に1人が65歳以上。
- ・学生の生徒数も微増傾向あるが、今後少子化の影響が大きく出てくる可能性もある。

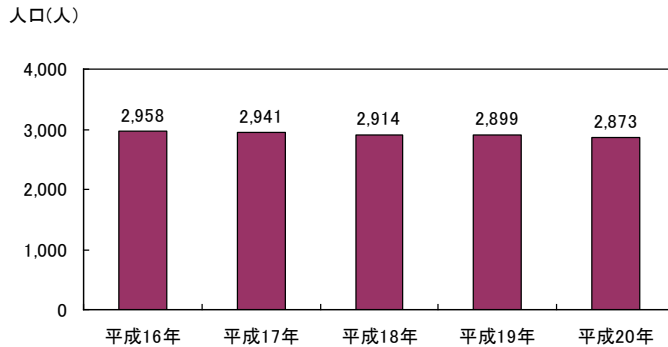


図 猿払村の人口推移 (道庁：住民基本調査)

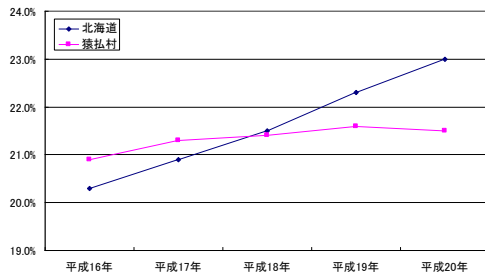


図 猿払村高齢化率の推移 (道庁：住民基本調査)

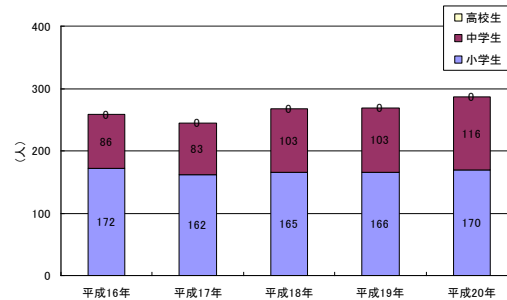


図 猿払村生徒数の推移 (道庁：学校調査)

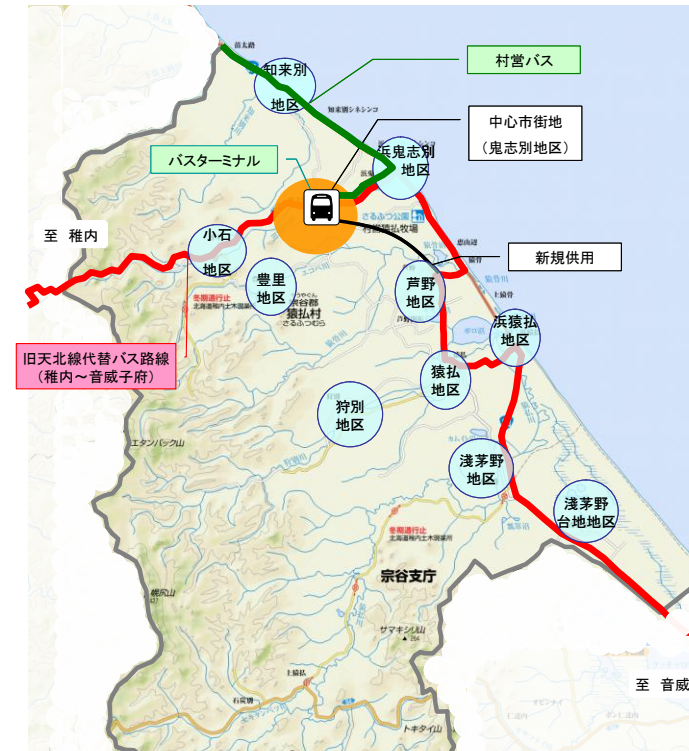


図 猿払村の公共交通状況及び集落点在状況

参考資料

公共交通

- ・本村には、2つの路線バスと都市間バス1路線のほか、患者輸送バスが存在する。
- ・路線バスは、天北線と、村の中心部と知来別地区(一部の便は稚内市東浦地区まで)を結ぶ村営バス。
- ・その他、バス路線の空白地帯である狩別・芦野高台・豊里地区には、週1回(豊里地区は2週に1回)患者輸送バスを運行しており、消防や「やすらぎ苑」(特別養護老人ホーム)でも患者輸送としての送迎を実施している。

表 天北線運行本数

【上り】 稚内→音威子府方面

【下り】 音威子府→稚内方面

運行区間	上り	下り	合計
稚内駅前バスターミナル～音威子府	3便	3便	6便
稚内駅前バスターミナル～浜頓別高校	3便	3便	6便
稚内駅前バスターミナル～鬼志別	1便	—	1便
稚内駅前バスターミナル～鬼志別(上声問経由)	—	1便	1便
稚内駅前バスターミナル～曲淵	—	1便	1便
稚内駅前バスターミナル～曲淵(上声問経由)	1便	1便	2便
小石～音威子府	3便	3便	6便
合計	11便	12便	23便



写真 天北線車両

表 村営バス運行本数

【上り】 鬼志別→知来別・東浦

【下り】 東浦・知来別→鬼志別

運行区間	上り	下り	合計
鬼志別～東浦(稚内市)	2便	2便	4便
鬼志別～知来別	(※) 8便	(※) 8便	16便
合計	10便	10便	20便

(※) 各2便(始発便と最終便)は予約制



写真 鬼志別バスターミナル

参考資料

村営バス利用者のOD調査(乗降調査)

平成20年10月18日～25日に行った村営バスの乗降調査では、8日間で上下合計158名の利用があった。1日当たり9.8人の利用となっている。女性の利用割合が非常に高く、年代も60歳代以上が非常に多い状況であった。乗降バス停では「鬼志別」「病院前」「浜鬼志別」で乗降利用が多い状況である。

表 村営バスOD調査結果

乗降数

10/18-25	鬼志別ターミナル	病院前	浜鬼志別	浜鬼シネシンコ	知来別シネシンコ	天野宅前	漁港前	学校前	鈴木宅前	苗太路	東浦
1便当り人数	0.6	0.8	0.9	0.6	0.4	0.4	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0
1日平均人数	5.6	8.1	9.4	5.6	4.0	3.9	3.9	2.3	0.3	0.0	0.0
8日間人数	45	65	75	45	32	31	31	18	2	0	0

乗降数

10/18-25	東浦	苗太路	鈴木宅前	学校前	漁港前	天野宅前	知来別シネシンコ	浜鬼シネシンコ	浜鬼志別	病院前	鬼志別ターミナル
1便当り人数	0	0	0.0125	0.2125	0.3875	0.3875	0.4375	0.575	1.0125	0.9625	0.6125
1日平均人数	0	0	0.125	2.125	3.875	3.875	4.375	5.75	10.125	9.625	6.125
8日間人数	0	0	1	17	31	31	35	46	81	77	49

便名	東浦行き		鬼志別行き	
	8日間人数	8日間人数	1日平均人数	1日平均人数
1	0	1	0.0	0.1
2	0	8	0.0	1.0
3	1	31	0.1	3.9
4	17	13	2.1	1.6
5	22	17	2.8	2.1
6	15	12	1.9	1.5
7	11	7	1.4	0.9
8	10	0	1.3	0.0
9	3	0	0.4	0.0
10	0	0	0.0	0.0

	東浦行き		鬼志別行き	
	8日間人数	8日間人数	1日平均人数	1日平均人数
年齢 10代	14	0	1.8	0.0
年齢 20代	3	5	0.4	0.6
年齢 30代	3	5	0.4	0.6
年齢 40代	1	6	0.1	0.8
年齢 50代	2	8	0.3	1.0
年齢 60代	8	21	1.0	2.6
年齢 70代	29	0	3.6	0.0
年齢 80代	19	0	2.4	0.0
性別 男性	9	11	1.1	1.4
性別 女性	70	78	8.8	9.8

注) この乗降は10代以上の村民で集計、8名の保育園利用送迎を除いて集計している。

村内の買い物に関わる物流状況を把握するため、村内で生活用品を宅配しているコープさっぽろの宅配「トドック」と移動販売車で村内を営業しているオホーツク海陸食品の2つについて調査を行った。

(1) コープさっぽろ「トドック」

担当者 稚内宅配センター センター長 福本氏

稚内市朝日6丁目

ヒアリング概要

- ・ 宅配サービスは当初札幌から始まり、現在は全道で展開している。
- ・ 稚内生協と合併したことにより、稚内の店舗は閉鎖したが宅配センターを新たに設置し、稚内を始め天塩町、中川町までを担当エリアとして週に1度、注文内容の宅配事業を行っている。
- ・ 猿払村では、年々利用世帯が増加してきており、平成21年1月現在で約360世帯が利用している。村内の4世帯に1世帯が利用していることになる。
- ・ 利用者は当初札幌等から転勤してきた学校の先生などが多かったが、徐々に地域に住んでいる方にも利用の輪が増え、現在の状況となっている。

(2) オホーツク海陸食品移動販売

運営統括責任者 南氏

宗谷郡猿払村小石291番地209 電話番号 01635-2-3456

ヒアリング概要

- ・ 月～土曜日で村内を一巡するように移動販売を行っている。
- ・ 利用者は、ほぼ固定客で、ほとんどが高齢者である。
- ・ 利用の状況が大きく増えている状況では無いが、利用者からは週2回、来てほしいとの要望がある。（費用的に難しい）



写真 参考イメージカントリーキッチン四季(名寄市)

本村における現在の交通空白地帯と今後拡大する可能性のある交通空白地帯を解消するために、従来の路線バス等の輸送手段にとらわれず、様々な手法を用いて代替交通手段を導入している事例を収集した。

なお、一部の事例では、今現在、関連法令等の問題が多いものもあり、すぐには導入に至らないものもあるが、今後の導入に向けて十分検討する余地があると考えられる。

表 先進事例調査一覧

番号	種別	都市名 (地域名)	概要
①	乗り合い タクシー	雫石町	あねっこバスは、一般のタクシーを活用したデマンド型の乗合タクシーである。町が運営主体となるNPO法人と委託契約を結び、同法人が地元のタクシー会社に運行を委託している。
②	過疎地有償運送	佐井村	過疎地において、住民ボランティアがマイカーを活用しデマンド対応により住民を有償で運送している。平成17年度に行われた実証実験に始まり、翌年度から本格運行を行っている。
③	有償ボランティア 輸送事業	上勝町	タクシーと同様な輸送サービスを有償ボランティア運送として行っている。当初は、構造改革特区を受け、社会福祉協議会が受託していたが、現在は特区からはずれ、受託先がNPO法人になっている。
④	貨客混載 (宅配輸送)	岩手県など	宅配会社とバス会社間で締結した運輸協定に基づき、宅配会社の依頼を受けてバス会社が路線バスで宅配貨物の輸送を行う。① 岩手県交通(株)、ヤマト運輸(株) ② 岩手県北自動車(株)、日本通運(株) ③ ジェアールバス東北(株)、日本通運(株)
⑤	貨客混載 (物流バス)	栗山町	スクールバスへの一般混乗と野菜を集荷する物流バスの実証実験。この実証実験では、効率的な運用と新たな活用、需要動向の把握、利便性の高い運行経路及びダイヤの模索、運行経費の削減を目的として行った。
⑥	ポストバス	イギリス	イギリスの郵便会社であるロイヤルメールが郵便配達にあわせて、人の輸送を実施する。郵便輸送の「ついで」に人を輸送するもの。

表 利用者ニーズ把握調査一覧

調査名	調査対象・目的	日程
①バス利用者へのヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> ●対象：村営バス利用者 ●目的：バスへの満足度、今後の利用ニーズ 	平成20年10月18～19日
②住民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ●対象：地域住民 ●目的：バス利用の現状、満足度など 	平成20年11月4日～19日
③地域懇談会による意見収集	<ul style="list-style-type: none"> ●対象：狩別地区、小石地区、芦野高台地区の住民 ●目的：バスサービスに対する意見、要望 	平成20年10月27～28日

■バス利用者へのヒアリング調査

調査目的：日常的に村営バスを利用している人を対象に、バス交通に対する意見や今後のバス交通に対する要望についてヒアリング調査を実施

実施日程：平成20年10月18日～19日（2日間）

有効サンプル数：53サンプル

調査方法：鬼志別バスターミナル及び村営バスに調査員が乗車し、聞き取り調査を実施

調査結果

表 乗客ヒアリング結果

	主な意見
公共交通について	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子どものためバス交通を維持してほしい。 ・通学交通の確保。/ ・冬期交通としてバスが必要。 ・車が利用できなくなったらバスを利用するので維持してほしい。
料金	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子どもの無料化。
運行	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの経路、バス停がわかりにくい。 ・バスを使いたくても近くにバス停がない。 ・1日2往復してほしい。（都市間バス） ・人と物を運ぶ交通。 ・路線バス、スクールバス、通院バスの一本化。 ・運転手のマナー向上。 ・役場職員のバス利用促進。 ・民間を利用した送迎サービス。コンパクトで効率のよい送迎。 ・バス停により待ちスペースが危険なところがある。 ・空車のバスが目立つ効率的な運行
車両	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクト化、通学バスなどの活用

参考資料

利用者ニーズ把握調査

■住民アンケート調査

調査目的：全村民住民を対象に、バス利用の満足度や今後の利用ニーズ等に関するアンケート調査を実施した。

実施日程：平成20年11月4日～19日

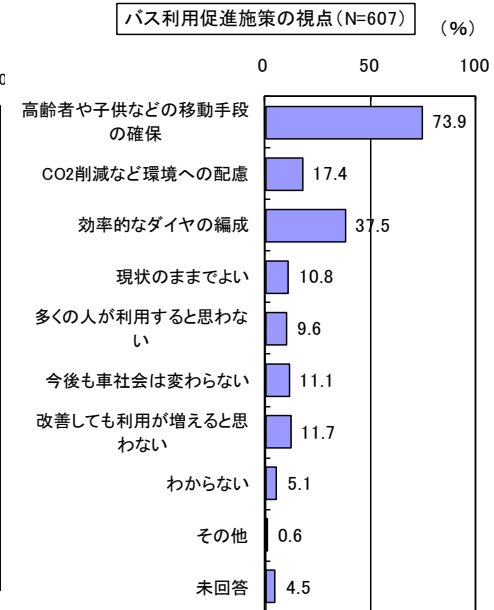
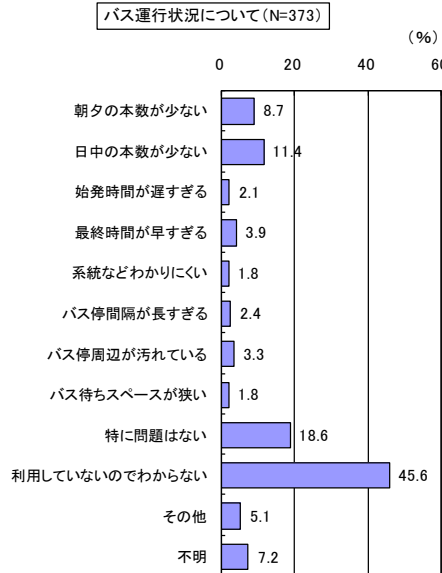
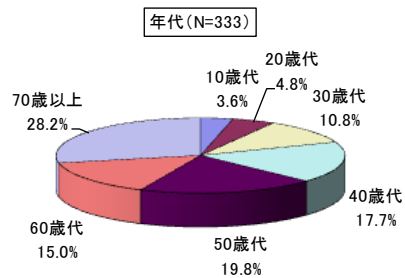
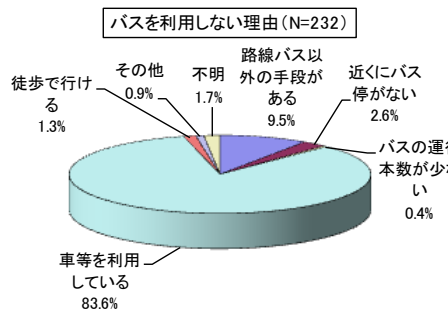
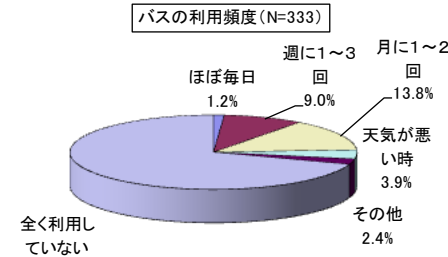
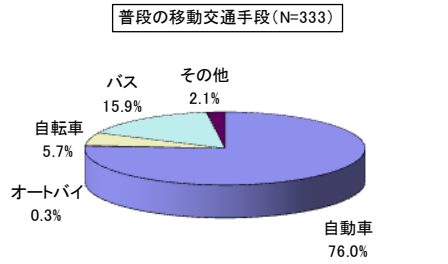
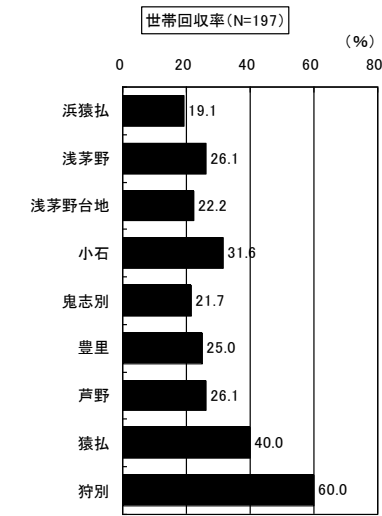
有効サンプル数：333サンプル（821世帯） 注）浜鬼志別・知来別地区は運輸局主体で別調査しているため含めていない。

調査結果：

◆半数以上が日常的に自動車を利用している反面、概ね4人に1人は、徒歩やバス、及び家族や知人等が運転する自動車に同乗するといった交通手段に限られている。

◆バス利用者の多くは、月に数回の利用となっている。バスを利用していない割合が高くマイカー移動の割合が高い。。

◆バス利用促進の施策を必要と感じている人は全体の半数程度で、中でも高齢者や子供に配慮した移動手段の確保が求められている。



利用者ニーズ把握調査

■地域懇談会による意見収集

調査目的：調査対象路線の沿道地区の住民を対象に懇談会を開催し、現状の村営バスに関する満足度や要望、及び今後の利用ニーズ等に関する意見収集を実施した。

実施日程：平成20年10月27～28日

実施場所：狩別地区、小石地区、芦野高台地区

懇談会の主な意見：

- ・私自身は車通勤でバスを利用していないが、高齢者、子どもなどバスを必要としている人は多々いると思うので、現状を維持しつつ、小さなことから始めてほしい。
- ・今はバスに乗っていないからわからないが、学生時代、バスの運転手ですごく感じの悪い人がいた。バスはただ人を運ぶだけでなく、利用者に親切にするものだと思う。
- ・利用者が少ないのは気になっていたが、かといって車に乗れない子ども、お年寄りのためにはあった方がよい。
- ・子どもが中学生で、土・日・祭日等のスクールバスがない時は宗谷バスを利用しています。村や教委で交通手段を確保してくれるのなら良いが、現在は宗谷バスしかない。時間も帰りが合わなかったりとかあるが、子どもが友達のところに遊びに行ったり来たりするためにも、村営バスや宗谷バスは絶対に必要。冬の降雪時にも遠出をする時には宗谷バスを利用するがバス停まで遠く不便を感じる。
- ・子供がいるので路線変更は高校進路選びに影響が無いようにしてほしい。
- ・バスの運行については、時間、本数ともに問題はありますが、人口密度が低く、バスに乗る人が少ないという問題がある。
- ・本数が減ってもバスが小さくなくてもよいから残してほしい。今現在、通学用のバスを利用したい。天北線が切り替えされた場合の足をしっかり確保してほしい。
- ・バス停まで遠い・便数が少ない
- ・中心部の鬼志別までも料金が高い
- ・浜頓別高校の部活で遅くなることもあるのでダイヤを考慮してほしい
- ・高齢者や子どもは無料。
- ・利用の少ない時間帯は10人乗りくらいの小型車にできないか。



写真 狩別地区



写真 小石地区



写真 芦野高台地区

参考資料

乗合タクシーの実証実験

◆アンケート結果

実施中、利用した5名に、運行や利用の問題点等の課題を把握するためのアンケート調査を行った。主な内容としては、利用した人の属性、今後の公共交通への期待、乗り合いタクシーが運行した場合の利用についてなどである。

調査結果：利用者の性別は、男性が3名、女性が2名であった。また、年代は、20歳未満が1名、70歳以上が4名であった。

なお、全ての利用者が、「普段は自動車を運転していない」という回答であった。

特に、利用した感想については、概ね好評を得ており、顕著な意見としては下記のとおりであった。

- ・全ての利用者が、「家で乗降できる」、「車両がコンパクトで乗り降りしやすい」と評価。
- ・予約については、5名中4名が「特にめんどろは感じなかった」と評価。
- ・有料運行された場合の運賃が心配。
- ・患者輸送を継続して欲しい。

また、今後の公共交通に望むことについては、全ての利用者が「安い運賃設定」を希望し、4名が「自宅と目的地間の送迎」を希望という結果になった。

◆今後の課題

- ・今回の実証実験は初めてということもあり、実験期間が短く、既存の路線バスをはじめ、患者輸送バスについても通常通りの運行をしていたことから、診療日などの生活パターンを変更してまで乗り合いタクシーを利用しなかったことが考えられる。
- ・実際に乗り合いタクシーを導入するための判断材料としては、まだ十分なものとはいえず、今後、患者輸送バスを一時休止して実験を行うなど、関係機関と連携を強化しながら実証実験を積み重ねていく必要がある。
- ・特に課題となる運賃設定においては、患者輸送バスが無料であることと安い運賃を望む声がある。その一方で、現在タクシー事業者が存在しないことから初期投資が避けられず、低い需要が広範囲に分散していることからコスト増を避けて通ることができない。従って、支払いやすい金額だけではなく、長期間持続可能な運行を可能にするため、全体のコストに対してどの程度まで運賃収入で賄えば良いかを、需要予測と将来の人口推計等を踏まえた上で議論を深める必要がある。
- ・本村にはタクシー事業者がないため、本格実施に至った場合の事業主体をどのように設立するかといった課題や、既存の路線バスの運行区間内への乗り入れについても課題が存在する。これらの課題や乗り合いタクシーにこだわらず、過疎地有償運送等の他の輸送手段も含めて、今後も検討を重ねていく必要がある。